

事務事業評価シート

(評価対象年度：平成 30 年度)

1. 基本的事項【PLAN】

①事務事業名										平和事業										②事業番号				1506																	
③事業類型				3. 政策推進事業										④開始年度				昭和 59 年度				⑤終了予定年度				年度				○ 設定なし											
⑥根拠法令等				法令				条例				規則				要綱				計画等				○ その他				法令等の名称				非核平和宣言都市									
⑦実施手法				○ 直営				全部委託				一部委託				補助・負担				○ その他																					
⑧関連予算科目コード										款				2				項				1				目				12				細目				7, 4			
⑨担当部名										⑩担当課名																										会計		一般会計			
総合政策部										人権推進課																															

2. 事務事業の現状把握【DO】

〔1〕事務事業の目的・事業内容

(1)対象(誰、何に対して事業を行うのか)	対象指標(対象者数を表す指標)	単位
① 市民	① 人口	人
②	②	
(2)事業内容(具体的な事務事業の内容、どのような方法で実施しているか)	活動指標(活動の量を表す指標)	単位
非核・平和「市民の集い」を開催している。また、平和月間周知のため、市役所壁面に懸垂幕の掲示、玄関ロビーでのビデオ上映による平和意識の啓発を実施している。	① 集い開催数	回
	② 啓発ビデオ放映日数	日
	③ 懸垂幕設置日数	日
(3)意図(対象をどのような状態にしたいか、何をねらっているのか)	成果指標(意図の達成度を表す指標)	単位
戦争の悲惨さを認識し、日々の生活の中では意識することの少ない、命の大切さや平和の尊さについて考える機会とする	① 参加者数	人
	② 計算式	
	③ 計算式	
(4)結果(対象を意図する状態にすることで、何に結びつくか。上位施策との関連)	総合計画体系上の位置付け	
平和の大切さを訴え、戦争を知らない世代にも継承していくことにつながる。	政策(章)	1 すべての人が尊ばれ、その個性が発揮できるまち
	施策大(節)	1 市民すべてが平和を希求するとともに、互いの存在を尊重し信頼しあい、いかなる差別もなく、一人ひとりが大切にされる人権文化のまちをめざします
	施策中	2 恒久平和の実現
	施策小	1 平和施策の推進

〔2〕各種指標値、事業費の推移

	指標名	単位	H28実績	H29実績	H30実績	R1見込	R2目標	指標値の推移における 特殊要因などの説明
対象指標①	人口	人	63,125	62,549	61,984	—	—	
対象指標②								
活動指標①	集い開催数	回	1	1	1	1	1	
活動指標②	啓発ビデオ放映日数	日	10	10	11	15	15	行事の内容により、毎年参加者数の増減は多少あるものの、H30年度については講師の知名度及び市民の関心が非常に高く、参加者数の増大につながった。(講師：蓮池薫氏)
活動指標③	懸垂幕設置日数	日	31	31	31	31	31	
成果指標①	参加者数	人	262	530	700	300	300	
成果指標②								
成果指標③								
事業費	投入人員	人	0.26	0.20	0.25	0.25		事業費などの推移における 特殊要因などの説明
	正職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	任期付職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	臨時職員	人	0.00	0.00	0.00	0.00		
	事業費	千円	2,088	1,606	2,027	2,027		
財源内訳	人件費(投入人員*単価)	千円	2,088	1,606	2,027	2,027		—
	直接事業費	千円	324	338	331	270		
	総事業費	千円	2,412	1,944	2,358	2,297		
	国庫支出金	千円	0	0	0	0		
	府支出金	千円	0	0	0	0		
財源内訳	受益者負担金	千円	0	0	0	0		—
	その他特定財源	千円	0	0	0	0		
	一般財源	千円	2,412	1,944	2,358	2,297		

〔3〕事務事業開始の経緯、状況の変化、評価結果への対応

①この事業を開始したきっかけは何か。	昭和59年に非核平和都市宣言を行い、毎月8月を「非核平和月間」としている。
②開始から現在までこの事務事業を取り巻く状況は、どのように変化したか。また、今後どのように変化していくと考えられるか。	時の経過とともに、戦争を体験したことがない人が増え、戦争の悲惨さを知る人は少なくなっている。だからこそ、戦争を知らない世代への啓発が必要である。
③前年度の評価結果を受けて行った改革・改善の取組はあるか。	—

3. 事務事業の評価【CHECK】

〔1〕目的妥当性(必要性)

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔1〕の評価

A

評価項目	評価及び理由・説明等	
①事務事業の意図すること(目的)は、上位施策(施策小)の達成に貢献しますか。	ア. する イ. ある程度 ウ. しない	市民の平和意識の向上につながる。
②税金を使って達成する目的ですか。 (市が関与する必要がありますか、市民(特に納税者)の納得が得られますか。民間に類似サービスはありませんか。)	ア. はい イ. ある程度 ウ. いいえ	泉南市は「非核平和都市宣言」を行っており、積極的に平和について啓発を行っていく必要がある。
③対象範囲、単価、事業費規模は市民のニーズや社会環境に合っていますか。 (他団体と比較してどうですか。)	ア. 合っている イ. ある程度 ウ. いない	ここ数年の事業規模において、市民の集いのアンケートから鑑みると一定の成果が見られていると認識している。
④事務事業を休止・廃止した場合、市民生活(あるいは上位施策)への影響はありますか、ある場合それは大きいですか。	ア. 影響がある イ. ある程度 ウ. ない	戦後から長い年月がたち、戦争の悲惨さを知る人が少なくなってきた中で平和の尊さについて考える機会が減り、影響は大きい。

〔2〕有効性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔2〕の評価

A

⑤期待どりの成果が得られていますか。	ア. 得られている イ. ある程度 ウ. いない	「非核平和の集い」を実施することにより、平和の尊さや命の大切さを次世代へ語り継ぐことができる。
⑥今後事務事業を工夫することで成果向上の余地はありませんか。 (事務事業の成果指標をさらに伸ばすことができますか。)	ア. ある イ. ない	行事内容を充実させ、周知広報を徹底することにより、参加者数が増加し、成果向上を図ることができる。
⑦庁内の他部署で、類似の目的を持つ事務事業はありませんか、それらと統廃合や連携を行うことで、より成果を向上できますか。	ア. 類似なし イ. できる ウ. できない	教育委員会と連携を行い成果向上に努めたい。

〔3〕効率性

A.高い B.やや高い C.やや低い D.低い

〔3〕の評価

A

⑧成果を下げずに事業を工夫してコスト(直接事業費+人件費)を削減する手法はありませんか。 (業務改善、業務の委託化、委託業務内容の見直し、IT化などはできませんか。)	ア. ある イ. ない	現行の取組を継続していくことが重要である為、今以上のコスト削減は難しい。
⑨受益者負担の適正化余地はありませんか。 (歳入確保はできませんか。)	ア. ある イ. ない	事業内容から不適切と考えられる。

4. 総合評価

総合評価	評価(A~D)	個別評価の結果を踏まえて課題等を整理	A: 現状のまま事業を進めることが適当 B: 事業の進め方に改善が必要 C: 事業規模、内容、実施主体の見直しが必要 D: 事業の統合、休止・廃止の検討が必要
	A	—	

5. 改革、改善案【ACTION】

<今後の方向性>

ア	ア. 現状のまま継続 イ. 見直しのうえで継続 ウ. 終了 エ. 休止 オ. 廃止	(年まで) (年から) (年から)
	<今後の展開方針> a. 重点化する(集中的なコスト投入) b. 手段を改善する(実施主体や実施手段を変える) c. 効率化する(コストを下げる) d. 簡素化する(規模を縮小する) e. 統合する(他の事務事業と統合する)	
①改革、改善の具体案、実施年度など		—
②改革・改善を実現するうえで、解決すべき課題及び考えられるその解決策		—